

「すがたをかえる大豆」

1 単元の目標と評価規準

目標：中心となる文や大事な言葉に気を付け、段落相互の関係を考え、文を読むことができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 文や段落相互の関係を示す手掛かりとしての接続語の役割について理解している。	① 「読むこと」において、中心となる文や大事な言葉に気を付け、段落相互の関係を考え、文を読むとしている。	① 積極的に説明される内容とそれを支える事例との関係などについて、叙述を基に捉えようとしている。

2 教材について

終わり		中					はじめ	
筆者の感想	事例のまとめ	事例⑤	事例④	事例③	事例②	事例①	提示 話題	
⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
このように、大豆はいろいろなすがたで食べられている。 大豆のよいところに気づき、食事に取り入れてきた昔の人々のちえにおどろかされる。	これらの他に、とり入れる時期や育て方をくふうした食べ方もある。 (枝豆・もやし)	さらに、目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうもある。 (納豆・味噌・しょうゆ)	また、ダイズにふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふうもある。 (豆腐)	次に、こなにひいて食べるくふうがある。 (きなこ)	いちばん分かりやすいのは、大豆をその形のままだり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうである。(いり豆・煮豆)	隠れた問いでは、どのようなくふうをしてきたのでしょうか。 大豆はかたく、そのままでは食べにくい。昔からいろいろな手をくわえて、おいしく食べるくふうをしてきた。	大豆は、いろいろな食品にすがたをかえていることが多いので、それほど食べられていることは意外と知られていない。	

本教材は、様々な食品に「すがたを変える」大豆について、具体的な事例を元に説明された文章である。

段落ごとの要点を読み取ったり、全体の構成を捉えたりする力を育成するのに適している。

3 単元計画(全8時間)

次	時	学習目標	学習活動
第一次	1	写真や実物の大豆を元に、気が付いたことや知っていることを交流することができる。	○様々な大豆製品の写真や実物の大豆を見て、気が付いたことや知っていることを交流する。 ○教材の範読を聞く。
第二次	2	本文を「はじめ、中、終わり」に分けることができる。	○「はじめ、中、終わり」にそれぞれどのようなことが書かれているかを思い出す。 ○ペアで「はじめ、中、終わり」の分け方について考え、発表する。
	3	本文の内容にふさわしい問いを、叙述を元に考えることができる。	・「はじめ」(形式段落①、②)の内容を読み取る。 ・本文にふさわしい問いを考える。
	4 5 6	「中」の内容を理解し、段落ごとの要点をまとめることができる。 【第4時】形式段落③、④ 【第5時】形式段落⑤、⑥ 【第6時】形式段落⑦	○音読をする。 ○本文の内容を読み取る。(動作化) ○段落ごとの要点をまとめる。
	7 (本時)	接続詞に注目しながらセンテンスカードを並べ替えるを通して、筆者の記述上の工夫について考えることができる。	○食品の写真を本文の順番に並び替える。 ○「中」のセンテンスカードを本文の順番に並び替え、正しい接続詞をセンテンスカードに書き込む。 ○「事例の順番を変えても良いか」について考える。 ○筆者の事例の順番の意図について考える。
	8	形式段落⑧の内容を読み取り、「筆者の主張」を本文中から探すことができる。	○形式段落⑧内容を読み取る。 ○形式段落⑧が何文で構成されているかを考える。 ○第何文が「筆者の主張」なのかを考える。

4 全力参加のための手立て

動作化

煎る、煮る、粉に挽くなどの言葉
の動作化

→内容理解

センテンスカードの並べ替え

センテンスカードを並べ替えることで、
接続詞の使い方に気付かせる。

→記述の工夫への気付きを促す。

5 本時の展開(全8時間中の第7時)

本時の目標:接続詞に注目してセンテンスカードを並べ替えることを通して、筆者の記述上の工夫について考え、友達に伝えることができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ▲個別の支援	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1. 事例で出てきた食品を確認する。 T:「中」ではどのような食品が出てきましたか。 C:煮豆 C:しょうゆ C:納豆 C:みそ C:豆腐	・児童が答えた食品の写真を掲示する。 ①煎り大豆 ②煮豆 ③きなこ ④豆腐 ⑤納豆 ⑥味噌 ⑦しょうゆ ⑧もやし ⑨枝豆	
展開1 15分	「筆者はなぜこの順番に事例を紹介したのか」について考え、友達に伝えよう。 2. 食品の写真を本文の順番に並び替え、全体で共有する。 →終わったらペア同士で確認する。 3. 「中」のセンテンスカードを本文の順番に並び替え、正しい接続詞をセンテンスカードに書き込み、全体で共有する。 →ペアで取り組ませる。	・食品の写真を児童一人ずつに配布する。 ・接続詞を空欄にしたセンテンスカードを掲示する。【視覚化】 <u>接続詞</u> ・いちばん分かりやすいのは ・次に ・また ・さらに ・これらの他に ▲教科書を確認して活動して良いことを伝える。	接続詞に注目してセンテンスカードを並べ替えることができたか。(行動観察)  伝えたい
展開2 20分	4. 「事例の順番を変えてもよいか」について考え、発表する。 T: 事例の順番を入れ替えても良いですか。「変えてもよい」「変えてはだめ」「決められない」の3つの中から自分の考えを選びましょう。 C: 「変えてもよい」と思います。なぜなら、豆腐などよく食べる食品から紹介した方が読んでいる人が読みやすいと思ったからです。 C: 「変えてはだめ」だと思えます。なぜなら、読んでいる人に分かりやすいように工夫して書いてあるからです。	・名前マグネットを黒板に貼り付けさせ、それぞれの意見を明確にする。【視覚化】 ・理由も含めて発表するように促す。	

	5. 筆者の事例の順番の意図について考え、発表する。 T: 筆者はなぜ教科書の順番で事例を紹介したのですか。 C: 作り方が簡単な物から紹介した方が分かりやすいから。 C: 作るのに時間がかからないものから紹介している。 C: 読んでいる人が分かりやすいものから紹介しているから。	・全員が発言できるように挙手と指名を組み合わせる発言を促す。 ▲ 接続詞の使い方に着目して考えることを声掛けする。	筆者の記述上の工夫について考えることができたか。(発言)  考えたい
まとめ 5分	6. 本時の学習をまとめ、発表する。 → 本時の学習で分かったことや気が付いたことをワークシートにまとめ、発表する。	▲ 本時の学習のめあてに沿ってまとめられるようにワークシートを穴埋め式にする。	

6 板書計画

○ 作り方がかんたんなものから

○ 作る時間が短いものから

読んでいる人がわかりやすい。











「事例の順番を変えても良いか。」考えよう。

変えても良い

変えない

決められない

筆者はなぜこの順番で事例を紹介したのだろう。

「すがたをかえる大豆」

センテンスカードを本文の順番に並び替えよう。

くふうした食べ方もあります。

目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうもあります。

にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふうもあります。

こなにひいて食べるくふうがあります。

大豆をその形のままだうたり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうです。

7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3) 分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。